

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470103807		
法人名	医療法人 博光会		
事業所名	グループホームつかがわ		
所在地	大分市東春日町5番25号		
自己評価作成日	平成30年8月30日	評価結果市町村受理日	平成30年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府 壱番館 1F		
訪問調査日	平成30年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームつかがわでは開所14年目を迎えています。利用者様は自分で何でも出来る時代から今は全員(18名)が全介助状態となっています。このような状況の中で私たちに何が出来るか？それは最期まで穏やかに過ごせる時間を上質にしてゆくことと考えています。今ではほぼ全家族の方々がグループホームつかがわの看取りを希望されているので看護師、介護職員は「利用者様が最期まで本人らしく生活できるように」を目標にして質の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体医療機関と隣接する法人グループの2~3階に2ユニットのグループホームが設置されています。各種の行事や緊急時の対応等相互に緊密な連絡や協力して行う体制が整備され、利用者、家族の安心に繋がっています。家族会、運営推進会議、行事等の家族の参加や面会の多さが、家族との信頼関係の深さを物語っています。現在は利用者の高齢化、重度化が進む中、日頃の活発な生活から、穏やかで和やかな生活に変化し、利用者中心のケアに反映すべく、職員が目標を掲げ、真心を持ちながら、一致協力したケアに邁進しています。また、地域との関係構築にも積極的に努力し、地域行事への協力や参加、事業所で地域交流会(食事会)を行う等、地域に根差した事業所作りができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域とのつながりを大切にするグループホームの理念があり理念に基づいた目標を掲げ啓示することで職員は日々確認しながら実践している	開所時からの基本理念は、ケアの規範として職員の中に浸透しています。職員は理念を具体化した目標を立て、半年毎に振り返り、「ぬくもり」のあるホーム作りを目指し、利用者の尊厳を第一に考えた支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行う防災訓練や夏祭りなどの行事には企画から参加し、当日には運営協力もしており交流を深めている 日常では公園への散歩などを通し地域住民の方々との交流を行っている	理念の中に「地域に密着した生活支援」とあるように自治会に加入し、情報交換等積極的に行い関係構築に努めています。地域行事で防災訓練や夏祭りには企画の段階から参加しており、その協力は地域の若者の参加増に繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェ、ふれあいサロン、日曜会（デイケア休みの時の体験会） 包括主催の家族会等に参加して認知症、又介護予防の話を行なっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の生活や活動について報告し情報の共有をしている その中で運営推進委員の方から意見や提案を聞き、課題については持ち帰り前向きに検討改善できるように実践している	2ヶ月毎の定期開催が実現しており、行政、家族、地域代表者等が参加し、利用者の現状や活動報告がされています。参加者からの意見の中で、家族の意見・要望が多く、事業所は理念に照らし丁寧な説明がなされ、意見等はサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市職員の方に参加していただき意見交換を行っている 家族対応などで悩むときはその都度連絡をし、相談を行っている	運営推進会議には毎回参加していただき、情報交換の場となる他、管理者が頻繁に行政に足を運び不明な点等細かなことでも相談したり、メールでの相互連絡を取り合い協力関係を築いています。また、王子地域包括支援センター主催の茶会に参加し、アンケートを取り、運営の参考にしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部研修に参加、また勉強会も開催、毎月の会議で身体拘束についての話し合いを行い報告書でも周知徹底に努力している すべての職員が理解するよう身体拘束マニュアルを作成指導している	身体拘束及び虐待防止の研修会と法人作成のマニュアルをもとに3ヶ月に1度勉強会を行い、その内容及び弊害を認識し、利用者の人権を守ることを、ケアの基本としています。身体拘束廃止委員会を立ち上げ全職員で意識向上に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームで独自の高齢者虐待マニュアルを作成しており対応の統一を図っている 困難事例については利用者様の状態をしっかりと把握し話し合いを重ね対応している、また身体拘束をしない工夫を行い人的サービスに一貫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員よりフィードバックして学ぶ機会を作っているが一般職員の知識としては不十分な面もあり、現在成年後見制度を使っている利用者様もおり実地で学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にグループホームの見学と説明を詳しく行い疑問点や不安な点に対して適切に解答し十分納得理解を得たうえで契約を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に自由に意見が頂けるように御意見箱を設置している、また年1回アンケートを実施し家族会でアンケート結果を公開、質問、苦情などはその都度答えている。	運営推進会議や家族会への参加が多いことが特長です。家族会は行事に合わせ開催されており、孫を連れて参加する家族や、忘年会では、家族・地域役員等を招待し、職員とのコミュニケーションの場になっています。家族から出される忌憚のない意見のひとつひとつに誠意を持って答えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課制度を取り入れ自己評価表に意見や提案等を記載してもらっている 毎月全体会議やユニット会議にて意見交換を行い十分話し合いを持ち事業所の運営に反映している	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、会議等で出された意見や提案を収集し、職員全員で精査し運営に反映させています。半年毎に目標を立て、個別面談で話し合う機会を持ち、働きやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課をおこない自己評価を踏まえて面談を行っている、本人のスキルに応じた研修にも積極的に参加し、スキルアップ、モチベーションアップに努め段階的に目標を立てやりがいと向上心を持てる環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはチューターが指導を行いOJTも活用し日々のトレーニングを行っている、法人内でも活動報告会や研修の回覧フィードバックにてスキルアップに繋げている 研修会や勉強会にも積極的に参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所に訪問し意見交換を行ったり一緒に研修等を行い相互のサービスの質の向上に努めておりそれによりスキルアップやネットワーク作りに繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の違いからくる不安を理解し不安を受け止める声かけや接し方を行っている。特に入居時は密にかかわり職員間の情報共有にも繋げている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	部長、管理者が中心となって家族と面談を行っている。要望を取り入れケアプランを作成し家族も安心できるよう関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族との面談の中でゆっくりと要望を聞いたうえで当法人の他のサービスを説明する。そのうえで家族、本人の安心できる事業所を選択して頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物量みなど利用者様の能力を発揮できる場面を作っている。利用者様の言葉や行動に職員が慰められ、力づけられることもあり、人生の先輩とともに生活し支え合う関係が築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要に応じて面談を行うなかで家族の思いをくみとるようにしている。入居者への意向などケアプランに繋げている、日常生活の状態を電話、手紙等を通じて共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者、家族の思いを尊重し、外出などの支援を行っている。施設の近くに住んでいた方も多く散歩に出かけた際、知人に声をかけられるなどなじみの関係をつなげているが重度化した現在は回数的に減少している	利用者も重度化になり、友人・知人との交流も難しくなった現在、馴染みの関係継続に出来る形で支援しています。外食や理髪店、親類の面会等家族の協力を得て実現しており、友人との文通や趣味を継続している方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事を通し関わりあえる機会を持てるよう支援している、重度化した現状でも顔なじみの関係はしっかり出来ているのでテーブルの席やくつろぐ時間帯等その人同士が良い関係になるよう配席に配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も利用者家族が訪問されたり連絡をもらうこともあり、また地域の行事で一緒になるようなことも多く相談に応じ助言を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のケアやコミュニケーションを通して言葉や行動、表情をしっかりと観察しご家族からの情報なども活かしながら、本人が穏やかにになれるケアプランを作成している	職員は1人ひとりの思いに応える支援が出来るよう、利用者との会話を積極的に行う中で思いや意向を把握しています。「気付き」は会議で話し合い全職員で共有し支援に繋がるとともに、ケアプランに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしやサービス利用の経過などは主にご家族から聞き取りを行い、また面会時の会話などから提供してく利用者様ひとりひとりのフェイスシートを作成し職員全員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の様子観察をしっかりと行い現状を記録している 個人のケース記録や伝達を毎日行い最新の情報を共有し職員全員が現状を把握してから業務に当たっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員からその方の現状や思いについて情報を提供してもらい課題を見つける ご家族の要望を取り入れたプランを立てモニタリングを行い次のプランへと繋げている	利用者の様子を記入した「ケアプラン情報資料」と家族、医師等の意見や思いをもとに、現状に即した計画を作成しています。「ケアプランチェック表」にて日々確認し、毎月モニタリングを行いケアの共有、実践に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケアプランチェック表、週一回のケアプラン評価(ケース記録にも記入)月一回のモニタリングの流れでケアプランチェックを行いそして次のプランへと繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事、ボランティア参加地域との交流等でいろいろの方々との関わりが持っている 体調不良、栄養的な事、医療法人の強みを生かし他職種協働で早めの改善が行なえている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に美術館や公園、神社、商店街などたくさんの施設がありホームでの生活だけでなく外出、地域の資源を活用することで地域の方々とのかかわりを持ち楽しく生活できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主として当院の医師が主治医を務めているがご本人、ご家族の希望があれば入居前からのかかりつけ医を選択することが可能(契約時に説明を行っている)また往診、夜間緊急時対応なども行っている	利用開始時に、利用者・家族の意向を十分伺い、同意と納得のもとかかりつけ医を決めています。多くの方が当法人の医療機関をかかりつけ医とされています。往診や緊急時対応、同行受診を家族に報告し密接な支援を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム一部署に1名の看護師が勤務しておりそれ以外にも各部署の看護師が連携し入居者の健康状態を確認、職員が異変に気づいたら即時対応病院との連携ができる体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	当院、連携病院だけでなくそのほかの病院ともカンファレンスを行い情報提供をし適切なケアが行われるように努めている また早期退院に向けて病院のソーシャルワーカーとの連携を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについて説明している また段階的に面談を行いご家族の思いを聞き、看取り期が近づいた場合は主治医を交え再度ご家族、ご本人の意向を確認したうえで再度同意書をもろう 職員は看取りの理念を全員で再確認し穏やかな人生が送れるよう統一ケアを行う	入所時に重度化や終末期に向けての事業所方針を家族に説明しています。終末期や看取りについては、状況の変化に応じ家族の意向を伺い、医師・職員が連携を取り再確認をしています。安心して納得した最期を迎えられるようチーム一丸となって取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回日本赤十字病院から講師を招き全職員が参加して応急処置、AEDを使っての心肺蘇生法を学んでいる。またヒヤリハット、アクシデント事例を検証し実践的に動ける体制になるよう強化訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に一度の通報訓練で強化を行う、年二回の登院訓練で災害時の実地訓練を行っている、また地震、津波などの災害に対しても全職員が周知できるようマニュアルを作成、さらに地域の防災訓練にも参加し協力体制がある	年二回の災害時避難訓練や2か月に一度の通報訓練又地域での防災訓練にも参加して協力体制を図っています。マニュアルのもと全職員が訓練の意義を共有し認識を深めています。	いつ起きるかわからない災害に対しては、日頃からの訓練や地域との繋がりを大切にされています。災害時、ホール内の家具の倒壊、落下物また利用者の身元確認、服薬等の準備等更なる防災意識の向上を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間としてその方の人生を尊重し、利用者様の認知レベルに関係なくその行動を否定することなく時間をかけ心に寄りそうとともに言葉かけを行っている 排泄介助、入浴介助は特に気配りを行なっている	研修やマニュアルで利用者の尊厳や権利を守る事への認識持ち、介護度に関係なく1人ひとりに寄り添い支援しています。入浴・排泄介助には言葉かけに工夫を行い対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化した利用者様が多く自己決定が困難になっている現状の中でも、本人の生活の中でしぐさ、表情、笑顔を見のがさず出来るだけ本人の心を読みとる様、努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務的にならないように常に声掛けをしながら個別のケアができる体制を作っている。また職員教育にも力を入れ利用者様のケアが優先されるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重度化して自分の意思を伝えられなくなった、現状は全介にて保清に力を入れている、又、その人の好みの洋服も御家族に依頼もしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一部を目の前で作ることで食への興味を持ってもらい楽しく会話することで食欲につなげている、またご飯、みそ汁の匂い等で生活感を味わって頂いている、特にケーキ作りは目の前で行なうので喜ばれている	調理の場面を目の前で見て・感じ、職員と一緒に食卓を囲み会話をしながら楽しい一時を過ごされています。月に一度、利用者の希望した献立で手作り料理が提供されています。おしぼりたたみやテーブル拭きのお手伝いをされる方もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取、食事量減少、普通食困難の方が多くなっているため、その方に合った形態、量等を栄養士、看護師、介護職で検討して栄養状態を保っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施するとともに嚥下状態や口腔内の状況に合わせた口腔ケア用品をそろえ、ケアを行っている また歯科医師と連携を取って場合によっては訪問診療での治療などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表などを活用して排泄、排便間隔をつかむよう努めている、またおむつを使用している方であっても介助することでトイレに座り自然排泄を促している	1人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っています。オムツ使用の方も昼間はリハビリを兼ねトイレに座って頂き自然排尿へと支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事をしっかりとってもらうとともに水分摂取の管理を行い体を動かすことで自然な排便を促している、また医療と連携し食事の内容や形態を考えその都度変更を加えている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉であることにより入浴への興味を持ってもらっている、あまり好きでない方にも世間話をしつつ興味を持ってもらえるように努力している、また強引な介助はせずその方の意思を尊重しつつ声掛けによって清潔を維持できるように心がけている	基本週3回の入浴となっておりますが、その日の1人ひとりの状況により意向を尊重し支援しています。温泉である事を説明して職員と会話をしながら入浴を楽しんで頂けるよう配慮がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状態に合わせてベット臥床したりソファで休んでもらうなどの対応をしている、寝具や室温に気をつけそれぞれに合った休息を取ってもらえるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬、臨時薬について理解できるよう伝達を行い全職員が確認したかどうかをチェックできるようにしている、また看護師による薬の管理も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化しているため出来ることが減少している中、本人の表情を汲み取りながら穏やかな時間を過ごして頂いている 裂け		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に職員の手伝いとしてゴミ捨てに行ったり買い物に出かける、誕生日に外食を計画、実施している、その方の状態にあった外出を実施している	隣接する公園に出かけたり、病院に薬を取りに行く事で気分転換を図りリハビリへと繋げています。利用者の希望を伺い個別に買い物や家族の協力を得て食事やドライブに出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最近お金を使用するという社会性は減少しているが、お祭り時のお賽銭は自ら進んで笑顔で箱の中に入れていく行為は見られる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方には自由に会話ができるよう支援している、手紙が来た時には手渡し一緒に読んだり、返事を書けるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のタペストリーを飾り四季を味わってもらえるような空間づくりをしている。自然の光を取り入れ明るさに配慮している。室温や湿度に気をつけ空調の調節をしている。夏野菜を植え利用者様とともに成長を楽しんでいる	手作りの季節のタペストリーが壁に飾られ温もりのある室内空間になっています。明るい室内には、羽釜、五つ玉算盤、飯盒等が飾られ懐かしく感じられ、利用者が手に取り職員と会話を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎの時間はソファーに座って頂き話が弾むようアルバムなどを用いて職員も加わり話している。車椅子の方もソファーに座って寛いくつろぐ時間を設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や品物を持ち込んでもらい家族やペットなどの写真を飾っている。家族も一緒に過ごしているような温かい空間づくりを行っている	使い慣れた家具や好みのもの、家族やペットの写真を飾り、これまでの生活の継続のように落ち着いて過ごせる支援がされています。安全面にも配慮が見られベッドと壁の間にマットが置かれ、ベッド柵には手作りのカバーが付けられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内部は自由に飾り、また、利用者様の昔の写真等を飾り、自分が出来なくても昔を思い出し元気になれる室内づくりを心掛けている		